

長野県

民俗の会通信

第284号

- コロナ禍のコトヨウカ.....
- 第二四回例会に参加して「棚田の植物観察会と豊科郷土博物館企画展見学記」.....
- 第二五回例会「つけば漁見学」に参加して.....
- 第二五回例会参加記「講演会を拝聴して」.....
- 修験系寺院の版木.....
- 【葉書きでつぶやくコーナー】門柱―安曇野に来て見て驚いた②―.....

市東 真一
白井 ひろみ
浦山 佳恵
樋口 明里
下平 武
倉石 忠彦

コロナ禍のコトヨウカ

コトヨウカ行事を見学して

本稿では、令和三（二〇二一）年二月八日に見学したコトヨウカ行事について報告する。コトヨウカの行事は、入山辺周辺で行われる藁製の大きな馬や百足、足半等を製作し、これを集落の境に置いたり焼却したりして厄病神を追い払い、無病息災を祈願する行事である。各集落では、貧乏神送りや風邪の神送り八日念仏とも呼称され、数珠回しも行うところもある。本稿では、実際に見学した既所、上手町、中村の行事の様子について報告する。

令和三年度のコトヨウカ

各地区のコトヨウカ 令和三（二〇二一）年度のコトヨウカの行事の中止を決定した集落は奈良尾、舟付、両島の三か所となっている。また、追倉は新型コロナウイルス感染症以前から行事は行われていなかった。この内、コトヨウカの行事を実行したのが、今井下新田、既所、上手町、中村の四か所である。今井下新田では七日一三時より数珠回しを実施したという。既所は、カメラマンの流入を牽制し

市東 真一

て藁馬を製作することを決定した。上手町は、例年より簡素化して藁馬の制作を行うことにした。さらに、中村では、ほぼ例年通りに百足の製作を行ったという。また、コトヨウカの行事を実施していた地区では行事後の宴会は行われていなかった。藁馬などの製作を見学できたのは、既所の貧乏神送り、上手町の貧乏神送りと風邪の神送り、中村の風邪の神送りである。

既所の貧乏神送り 既所の藁馬の製作は、一三時頃より公民館にて行われた（写真1）。公民館では、入り口に消毒剤が置かれ、藁馬の製作に取り掛かっていた人びとは全員マスクを着用していた。例年だと、公民館の内部は行事の様子を撮影に来たカメラマンでにぎわうという。今回は、「カメラマンを牽制する」として公民館に入れる人数を限定すると地域の人から聞いた。しかし、実際公民館の中は藁馬を作る人びとと写真を撮りに来たカメラマンで一杯になっていた。私は、密にならないように、当初は公民館の外から藁馬の製作を見学

していた。

しかし、藁馬が出来上がるにつれて、「あまり、人もいないので中で見てください」と言われたので、公民館に上がらせていただいた。

しかし、実際に公民館の中は明らかに人が多かったのが、本当に大丈夫なのか心配になった。

藁馬とジジ・ババと呼称される人形は、一三時一二分に完成した。その後、藁馬を中心に車座になって「ナンマイダー、ナンマイダー」と念仏を唱えながら数珠回しを行った。それ



写真2 河原に運ばれる藁馬



写真1 既所の藁馬の製作

から、製作した人たちの記念写真を撮影した後、ジジ・ババをのせた藁馬を薄川まで担いで運ぶ(写真2)。その際、先導役が鉦を叩きながら「ピンボガミ追せー、ピンボガミ追せー」と唱え言がされていた。途中、道祖神の前でも一度記念撮影が行われた。薄川に到着すると、再び藁馬を中心に念仏を唱えながら数珠回しが行われた。一四時半頃には、薄川のほとりで藁馬に火がつけられて行事は終了となった(写真3)。例年ならば、公民館の中で宴会を行ったというが今年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

上手町の貧乏神送りと風邪の神送り 上手町の行事は、一七時頃から開始となった。ここ



写真4 上手町の藁馬の製作



写真3 燃やされる藁馬



写真5 中村の百足の製作

でも、藁馬とジジ・ババと称される人形一対が製作されていた(写真4)。また、金剛杖と呼称される木の棒も作られていた。作り物は、公民館の外で制作が行われていた。ここでは、公民館の外で男性たちが藁馬の製作を行い、公民館の中で女性たちが人形を作っていた。しかし、人形の顔を描くのは区長の役目となっているという。その後、藁馬は一八時には完成し曳き回しが行われた。私は、藁馬が出ていくのに合わせて中村へと向かった。中村の風邪の神送り 中村に到着すると、すでに公民館の外で百足の製作が行われていた(写真5)。百足は藁を綱状に燃ったものである。百足は、一八時五〇分頃には完成した。その後、百足の上に二人の小学生が乗り、それを大人たちが集落境の六地藏まで曳きだした。その際に、一人の大人が鉦を叩いていた。乗った小学生は、途中百足が破損するまで百足にしがみつくように乗っていた(写真6)。最後に、集落境にとぐる巻くように百足置いて、行事は終了となる。その際、「絶対に振り向くなよ振り向いたら、悪い神様が付い

てくるから」と大人が子どもたちに語っていた。こちらの地区でも、例年ならば柏汁の振る舞いなどがあ

今年(令和二年)は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。

まとめ

令和二(二〇二〇)年より、新型コロナウイルス感染症の影響により、祭礼をはじめとする民俗行事はことごとく中止や簡略化されていた。その中で、コトヨウカの行事を行う人びとは「もともとは、疫病などを追い出す行事だから、ここでやめるわけにはいかない」と語っていた。いずれにしても、コトヨウカの行事を行うことにより、新型コロナウイルス感染症が集落に入れないもしくは追いつくという意味付けがされていた。一方で、密にならないために直会は中止となっていた。このように、新型コロナウイルス感染症のため行事を変更した部分も存在する。

その中で気になるのは、今後、本年の行事を中止した地区で新型コロナウイルス感染症が収束した後に再び元通りに行事が行われるかということである。いずれも、中止した三



写真6 百足に乗る小学生

◇事務局から

以下の問い合わせが、石川県白山ろく民俗資料館からありました。

問い合わせにお答えいただける方は、直接、以下のメールアドレスにお問い合わせをお願いします。

白山ろく民俗資料館

hakumin@pref.ishikawa.lg.jp (e-mail)

石川県白山ろく民俗資料館の本田秀生と申します。

今、木のかごについて調べております。当館の所在する石川県白山市白峰周辺では、イタヤカエデやヤマモミジの木を薄く剥だものでかごを作っております。これに類似したものが県外にないかと色々調べております。今のところ白山周辺の地域に分布していることはわかったのですが、新潟県ではアケビやヤマブドウ、ネマガリダケが主

白山ろく民俗資料館所蔵の木のかご類



写真1 上：キエゴ 下：素材 ヘジナ細工とよばれています

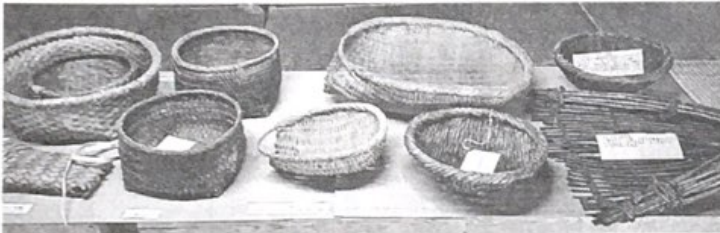


写真2 左：オボケ、ナタカゴ、イモアライカゴ 右：マタタビ製のザル

体のように長野県も同じような状況かと思っております(といってもネットや県史ぐらしか調べられておりません)。

ところが最近になって静岡の井川に類似のものがあることを確認し、長野県南部にわずかにあるという情報を得ました。ほかにもあるのではないかとお問い合わせした次第です。ご存じのことであればご教授いただけるとありがたいです。よろしくお問い合わせいたします。

白山ろく民俗資料館 本田秀生

◇会員異動

○退会 屋代西沢書店(千曲市)

八木橋勝豊(仙台市)

◇受贈図書

○『あなたと博物館』二二二・二二三・二三四

四(松本市立博物館)

○『民具マンスリー』五三・八・九・一〇・

一一・一二(神奈川県立日本常民文化研究所)

○『民俗』二五四・二五五(相模民俗学会)

○『伊那路』七六九・七七〇・七七一・七七

二(上伊那郷土研究会)

○『長野県立歴史館たより』一〇六(長野県立歴史館)

○『信州農村開発史研究所報』一五三・一五四・一五五(信州農村開発史研究所)

○『静岡県民俗学会誌』三三三(静岡県民俗学会)

○『静岡県民俗学会会報』一七九(静岡県民俗学会)

○『長野県民俗の会通信』二八四号
二〇二一年七月一日
会費年額 五,〇〇〇円

長野県民俗の会

事務局 佐久市甲一三五

田澤直人 方

郵便番号三八四一〇〇四

電話(〇二六七)八八・六九・二七

携帯(〇八〇一)〇二二・七八五二

振替 〇〇五二〇一三一・三六五七

長野県民俗の会

E-mail: info@nagano-minzoku.chu.jp

http://nagano-minzoku.chu.jp/